



平成 29 年 11 月 27 日

杉並区長 殿

杉並区NPO等活動推進協議会  
会長 福島 康仁

### 平成 30 年度杉並区協働提案実施予定事業の評価結果について

平成 30 年度杉並区協働提案実施予定事業について、下記のとおり評価を行ったので報告します。

#### 記

#### 1 協働提案評価員

氏 名	区分	備 考
ふくしま やすひと 福島 康仁	杉並区NPO等活動推進協議会会長、 同協議会協働推進部会部会長	日本大学法学部 公共政策学科教授
ただ くにあき 多田 邦晃	杉並区NPO等活動推進協議会 協働推進部会部会員	区民公募
まつもと さおり 松本 沙織		区民公募
はちや えつこ 八谷 悦子		NPO等活動関係者（公 募）
みはら きくえ 三原 紀久恵		団体推薦（東京税理士会 荻窪支部）
おく まさる 奥 優		団体推薦（公益社団法人 東京青年会議所）

## 2 協働提案一覧

### (1) 平成 28 年度から実施している継続事業

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 ピルコン	すぎなみレッドリボンプロジェ クト	保健福祉部 保健予防課 感染症係

## 3 協働提案の評価対象及び評価方法

### (1) 評価対象

平成 28 年度から実施している事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>●提案関係書類の書類審査               <ul style="list-style-type: none"> <li>①協働提案書【継続事業】</li> <li>②協働提案経費概算書</li> <li>③事業概要図</li> </ul> </li> </ul>
●提案団体・担当課による公開プレゼンテーション、質疑
●協働推進部会における各部会員の意見交換

### (2) 評価方法

●「協働提案評価表」(継続提案用)を使用して各部会員が評価項目ごとに ABCDE 評価する。

A=特に期待できる (5 点)、B=期待できる (4 点)、C=標準的である (3 点)、  
D=あまり期待できない (2 点)、E=期待できない (1 点)

●各部会員評価表を集計し、以下のとおりの採点を評価の参考とする。

・評価項目及び全体の平均点を出す。平均点を出すに当たっては、5 人の平均点を算出

●評価については、平均点に応じて以下の 11 段階で行うこととする。

A	B	C	D	E
特に 評価できる	どちらかといえば 評価できる	標準的である	どちらかといえば 評価できない	評価できない
5 ~4.45	4.44 ~3.45	3.44 ~2.45	2.44 ~1.45	1.44 ~1

## 4 評価内容

### (1) 平成 28 年度から実施している継続事業

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 ピルコン	すぎなみレッドリボンプロジェクト	保健福祉部 保健予防課 感染症係

### ○ 評価結果

「B」

### ○ 評価コメント

提案書類審査結果および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「すぎなみレッドリボンプロジェクト」にかかる「特定非営利活動法人ピルコン」および「杉並区保健福祉部保健予防課感染症係」の協働提案実施事業について、「どちらかといえば評価できる」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、区内の若者に関する喫緊の課題を適切にとらえた事業である。アンケート調査や経年の事業の実施を通じて課題を抽出し、柔軟に事業ビジョンを変更・修正を加え次年度の事業計画の策定を行っている。

設定された目標については、地域に根ざすという表現がやや不明確ではあるが、若者への啓発活動について具体的な目標を設定している。一例を挙げれば、ピア・エデュケーションの実施は、2年目では3回、延べ270人の参加者数であったところ、3年目は5回、1000人の動員と具体的な提案がなされている。この目標の達成には、協力団体（学校）との綿密な連携が課題になると思われる。若者への啓発活動が課題である点で、3年目に若者世代の自発的な活動を支援するとしている。

協働の効果については、いうまでもなく教育者との連携が肝要という点で、教育者を対象とした講演会・説明会の実施は協働による大きな成果といえる。区の単独事業では取組めなかった課題を、団体のノウハウを駆使し、一定の成果を得ているが、今後は区内の中学校、高校の学校説明会など、区の持つ信頼性やネットワークなどの資源を十分に活用した事業展開を期待したい。

地域資源の活用については、地域資源、地域人材の活用という点では、区内の学校との連携、協力体制の構築という点から多くの地域資源が活用されている。

区民満足度については、事業の実施による区民の満足度の向上は期待される事業である。また、杉並保健所の検査受診者数が増加していることから区民の満足度が向上していることがうかがえる。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、講演会や啓発資材の企画制作

については提案団体の知識・経験が生かされていると考えられ、次年度も大いに期待ができる。

計画性については、区内大学や施設での啓発活動、イベントの実施、説明会については、現時点では想定通りに実行できているとはいえない状況である。次年度の目標の達成には、他団体との協力体制の構築が課題であると思われる。企業協賛等、予算に関する計画は、的確な実施体制を取っている。一方、協力団体の役割分担がわかりにくいとの意見が委員から出されている。

経済性については、消耗品の予算が28年度の収支報告書より大幅に少なくなっている点が指摘できる。28年度予算では、計画段階では消耗品費は少なかったが、実際の支出は多くなったという経緯があるので留意すべきある。

創造性・新規性については、啓発活動に留まらず、若者の自発的な活動を促す取り組みという点は評価できる。より多くの無関心層を取り込むためには、特に中学、高校との連携を進めてほしい。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。取り扱いに難しいテーマを、斬新なアイデアを通じて多様なアプローチをしている点を高く評価し、今後の展開に期待したいとの意見が多くの委員から出された。

## 5 評価項目別評価

別紙のとおり